

九州教区だより
vol.01
[創刊号]

聲

— Voice —
ヴォイス

contents

所長あいさつ	1
表紙デザインについて	
教区教化テーマ	2
座談会—「生活を聞法の場に」—	3
教化委員会 紹介	7
総合教化本部・広報部門	
育成員研修部門・同朋の会推進部門	
青少年部門・組教化推進部門	
九州教区 解放運動推進協議会	
オンライン配信のはじめ方	10

- 設定すると良いでしょう。
- 開催日が近づいてきましたら、先で発行したZoom招待用リンクをご門徒にメールアドレス等を送ります。加えて式次第や注意事項、持ち物などを記載しておくことも忘れてはいけません。
- ご門徒の中にはZoom利用に馴染みされる方もおられます。もしそのような場合は、お子さんやお孫さんに相談するよう促したり、事前に一緒にリハーサルなどを行なうとよいでしょう。
- ★法座当日
- 当日になりましたらパソコン等のデバイス起動させ、映り方を意識して位置を設定します。そして時間になりましたら、Zoom招待用リンクをクリックし入室します。ご門徒よりも先に入室し、本堂の映り方に問題がないか確認しましょう。またご門徒が入室して来られたら「こんにちは」「どうですか？見えていますか？」などの声かけをすることがスムーズに進めるためのコツです。
- 式中にそれぞれの生活音が響かないように、参加者に「ミュート（消音）」するように促しましょう。
- 法要と法話で位置が変わる場合はパソコン（カメラ）の位置に注



意しましょう。休憩をはさむなどしてパソコン（カメラ）の向きを変更しても構いません。また声が届いているかどうかもこまめに確認しましょう。

● 法座が終わりましたらZoom画面右下の「終了」をクリックし「全員に対してミーティングを終了」にして散会しましょう。

おわりに

今回紹介したようなWeb会議システムは慣ればスマートフォンひとつで利用できるよう、しかし便利で手軽に利用できる分、仏法聴聞の安直化・希薄化につながる可能性も否めません。どのような形であれ、法務にたずさわる者、ご聴聞いただく方お互いの姿勢がこれからさらに問われていくことでしょう。

さらに詳しいマニュアルが必要な方は[真宗大谷派東京教区ホームページ](#)で資料がダウンロードできますのでご参照ください。



編集後記

教区だよりは、「人」が見える冊子を目指しています。創刊号では、総合教化本部の願いを知っていただきたく、本部員による座談会、各部門紹介を中心に構成しました。今後は本部からの一方通行でなく、教区や御門徒の皆さんの声もお届けします。教区だよりのタイトルは『聲（ヴォイス）』です。言うまでもなく声明念仏を指しています。本願念仏の教えを宗として生きる皆さまの聲（ヴォイス）を聞かせてください。それによって一カ寺一カ寺が元気になり、たくさんの方々の本願念仏の教えが届くことを願っています。

広報部門 インターネット会議の様子



広報部門 幹事 蓮尾 康行

慶讃テーマ 南無阿弥陀仏 —人と生まれたことの意味をたずねていこう—

発行／真宗大谷派 九州教務所
〒830-0038 福岡県久留米市西町540-1 TEL/0942-32-3056 FAX/0942-39-5077

編集／九州教区 教化委員会 広報部門
発行責任者／九州教務所長 武井 弥弘

真宗大谷派 九州教区

検索



教区教化テーマ

生活を聞法の場に ～真宗門徒として～

テーマ策定の願い（取意）

2020年になり、新型コロナウイルスが世界的に顕著な姿をあらわしました。未知なる感染症に対し人類は右往左往し、その対処法に苦慮しています。これまでの日常生活を脅かされ、私たちは得体の知れぬ恐怖に平常心を失ってしまったかのようです。このような事態発生により、多くの聞法の場が失われています。憂慮すべきは「命にかかわる」ことの大義を掲げ、当然のように、あるいは積極的に「場を回避する雰囲気」が醸成されることでしょう。

「生きているものの中で、生きている意義を自覚する機会を与えられているのは、人間だけです」と安田理深師は教えられています。「生きている意義を自覚する機会」を聞法の場というはずでしょう。「場」は寺院などの宗教施設に限りません。世間のあらゆるものによってその自覚をうながす。新型コロナウイルスが私たちに教えたものは何でしょうか。それを法縁に転じていく在り方こそ、今まさに確かめる必要があるのではないのでしょうか。

真宗大谷派の2020年度「教化研修計画の基本方針」には以下のように記されていました。

今、この危機感によって、私たちは原点回帰への歩みを促されている。困難な状況にあるからこそ、お寺とは何か、仏法を伝えるとはどういうことなのかを今一度原点に返って確かめる必要があるということであろう。 『真宗（2020年8月号）』より

この表現をかりればその確かめは「原点回帰への歩み」において進める他ないのではないのでしょうか。珍しく目新しいものに飛びつくのではなく、当たり前の日常生活を聞法の場とするということ。そのような「場」の誕生が望まれています。

このような視点を堅持しつつ、現実生活の場が聞法の場になることが願われています。

所長あいさつ

「発刊にあたって」

九州教務所長 武井 弥弘



九州教区が出発してアツという間に一年が過ぎようとしています。課題は山積みしていますが、皆様のご協力のお陰で歩みを進めさせて頂いております。

広域教区になって、まだまだ不慣れな事もあり、戸惑うことも多いと思いますが、10年、20年後のことを思いますと色々な事に挑戦しなければならない時であると思われま

併せて、新型コロナウイルス感染による宗教界への影響も非常に大きなものがあります。すでに都市圏では葬儀式、法事の縮小化・簡略化が進む方向で、葬式に僧侶を必要としない所謂「0葬」といわれるものが、九州でも増加しているとか。神道でも神葬祭を積極的に行い、樹木葬、永代供養に参入するなど、時代の流れは大きく、そして加速度的に変わろうとしています。いよいよ葬儀産業化する中で、本来の宗教儀式的意味や宗教による救済の事実が解らなくなっているようです。

このような現代だからこそ、報恩講に代表される宗教行事や、葬儀などの宗教儀式的意味を日頃の生活の中にしっかりと問い直し、自身に掛けられた願いに向き合うことこそ、真宗門徒としての在り方ではないのでしょうか。

九州教区には沢山の素晴らしい方がおられます。色々なヴォイスを聞かせて頂きながら、あなたに出会い、私に出会う聞法を大切にしたいものです。

表紙のモザイクアートについて

表紙のモザイクアートを作らせていただきました。広報部門の奥村と申します。イラストレーターとしても活動しており、今回の表紙作成を任せられました。作成する際には各組から写真を募り、3,200枚以上集まりまして、それらを素材に九州教務所のご本尊を描いております。これまでの写真で、これから集まる場所を模ったわけですが、作成する際に浮かんだイメージは「俱会一処」です。先達の遺徳を尊び、九州教区が共に教えをいただき、よろこび集う同朋の場であってほしいですね。

座談会

座談会
メンバー

寺本 温氏 (長崎組)



菊池 政和氏 (熊本東組)



三池 眞弓氏 (大牟田三池組)



手嶋 暁史氏 (大分東組)



綾戸 秀美氏 (八女組)

みになるなか、聴聞したいっていう皆さんの思いも後押ししてくれました。

手嶋 インターネット配信といいますと、先般御本山の春の法要の様子が配信されましたね。本堂にそれを映して、門徒さんと一緒に見たというお寺もあるようです。一年前には考えられなかったことですよ。コロナの影響ではありませんが、本山から遠い人たちからすると不幸中の幸いだった面もあります。リモートの技術って他にも沢山の可能性があるんだと感じますね。

綾戸 一方でやはり特に年齢がいくと、リモートって言った瞬間にもうわからなくなってしまうって、疎外感を覚える方って多いと思うんですね。その部分のフォローというのが一つ、今の課題かなと思います。

寺本 若い人の研修会や広く公開するものはリモートが有効な方法だと思いますが、高齢者には難しいですね。そもそも聞こえない方も多い。やはりその場に行って顔を合わせて話さないと多分法話は成立しない。だから、基本に戻ると言いますか、やはり地道な「集う場」というのも大切なんだとあらためて感じます。

九州教区が発足して一年が過ぎようとしています。

今回、教区教化委員会(総合教化本部)委員の方々にお集まりいただき、この一年を振り返っての座談会を行っていただきました。

Q. 改編について、率直な感想・ご意見をお聞かせください。

菊池 九州教区として新たな歩みが始まり一年が過ぎようとしています。まだ五つの教区が一つになったというくらいで、「九州教区でなければならぬんだ」といえるようなものはつきりしていないというのが現状ではないでしょうか。

寺本 「改編されて、ええこと何もない」っていう声をよく聞きます。でもそこで終わってしまったのはとても残念だなあと思いました。九州教区という大きな広域教区になったということは、いろんな能力や知恵、知識を持った人が増えて、今までの一つの教区ではできなかったことができるチャンスを得たということですよ。

手嶋 新しいものになるとき、それが大きけ

Q. 今後の課題や願いなどをお聞かせください。

寺本 九州教区の将来を考えると、これからお寺で頑張っていくという方、若い僧侶の方の育成ということは大きな課題ですね。

手嶋 地元に戻って来られた方からどういうふうに教区に出たらいいですかって相談を受けることがあります。具体的なアドバイスはなかなかできませんが、そこに先輩方と繋がっていく交流の場みたいなものが開かれているといいなと感じています。でも、こういう世代間の交流の場ってどこかで意図して作っていかないとなかなか実現しないですよ。

寺本 仏教青年会が各地域にあります。お寺の者だけがやっていると印象があります。それはそれで意味のあることと思いますが、やはり自身が僧侶として何を大切にしているのかを見つめ直していくという意味でも、そこにご門徒や地域の青年を誘っていくということも、これから特に大切になってくるのではないのでしょうか。

手嶋 これまでも各地で若手僧侶が学ぶ場が開かれてきたと思いますが、教区改編で一つにまとまったんだからそれぞれの場所で培ってきた

れば大きいほど何か漠然とした不安のようなものを感じ、「今のままがいい」みたいな考えになりがちですよ。でも実は、起こった現象とか、今できることは何かっていうことに目を向けることが大切なんだろうと思います。教区改編によっていわゆる事務的な手続きが少し大変になったということはありますが、ご門徒さんとの距離までそれに巻き込まれて離れていくことではない。そのことは忘れられないようにしないといいですね。

三池 昨年の十月に坊守会では坊守研修会をユーチューブ配信という形で行ったんですね。コロナが流行りだしてもう十カ月近く経って、テレビ番組なんかでもいろいろと工夫されているのを目にしましたので、コロナだからできませんじゃダメだって思っていました。そこで職員の方に相談したらいろいろと調べてくださって実現したんです。定例会や法要もお休

ノウハウを情報交換したり、お互いに参加して学んだりしてより充実させていくことも可能だと思えますね。

寺本 北海道には定例線といって、各寺が毎月一回定例法会を開いて、そこに教学研究の修了者を派遣する仕組みがあります。教区で旅費と宿泊費を負担して、お寺は御法礼を用意するんですが、若手僧侶が頑張るんですね。これは過疎化で経営が厳しくなってきたてきているお寺の助けにもなるんじゃないかな。長崎時代はそうでもないかなと思ってましたけど、九州教区は所帯が大きくなったんで、少しできるかなって思っています。

手嶋 私たちは通夜や法事の場で当たり前のように法話をさせていただきますが、よくよく考えてみたら、人の話を一〇分も聞いてくれる場ってよほどの有名人や大学の先生じゃなきゃまずないですよ。静かに聞いてくださるこの場というのは私たちの先輩方がつくってくれた大切な場なんですよ。だから私たちはその場を大切にしなければならぬし、そのための積極的な情報交換や学びの場を持つことは大事なことだと思います。

綾戸 門徒からすれば、お通夜っていうのは本当に土壇場のところで、もう悲しみに打ちひしがれているところで、やっぱりそこでお話が聞けるっていうのは本当にありがたいです。

寺本 念仏相続が危機化しているなかにあつて、葬儀や法事のあり方をきちっと見直していくことは、大切な課題ですね。

三池 坊守をしていると「なんで永代経って勤まるんですか」とか、「お彼岸ってなんですか」などいろんなことのお尋ねを受けるんですね。だから、たとえば本当に真宗の教えにこれまで触れてこなかった坊守さん方にも「宗祖って誰ですか」というようなところから学んでいける研修会や講座が開かれることは必要ですね。

綾戸 私たち門徒からすれば坊守さんという



若い方でもお勤めできてなんでも知っておられると思っちゃうんです。でも、実際、そのことで悩みを抱え苦しんでおられる若い坊守さんにお話を伺ったこともあります。

手嶋 坊守、准坊守さんのなかには、一般の家庭から、結婚を機にお寺で生活をするようになったという方も多いと思います。お寺に限った話ではないですが、違う環境に飛び込んでいくことには大変なご苦労があると思います。あの意味、ご門徒とお寺のはさまにいる方もいえるわけで、そこへの取り組みは、ご門徒さんへの取り組みの糸口になりうると考えています。そういった意味でも坊守さん向けの研修は大切にしたいですね。

綾戸 旧久留米教区るときは女性、婦人研修会っていうのが常にあつて、坊守さんと一緒に聞法ができる場がありました。教区改編で急に大きくなってしまつて形が変わつてしまい、門徒も取り残されたみたいになっていました。

三池 コロナで思うように研修会を開きにくい状況ですが、やはり会館や別院などを積極的に活用してそういう場を作っていきたいですね。それがきつと門徒さんにとって、私たちに

菊池 親鸞聖人の御絵伝の最後の場面では御堂が中心に描かれ、その横にホウキを持ったお坊さんの絵が描かれてありますよね。これには様々な意見や説がありますが、ホウキというのは生活の象徴ですから、日常生活なしに聞法はないんだというようなことをいただくことができるのではないのでしょうか。

手嶋 「生活を聞法の場合」の「生活」というのは、例えば、一カ寺の原点を確かめるとか、一人から始めるとか、なにか大きな単位でやるというよりも、もう少し小さな単位での取り組みを後押しする言葉のように感じています。お寺に身を置く者にとっては、「お寺にいる」っていうことがどういうことなのか、それを問われることだなと感じています。

三池 親鸞聖人のご生涯において、妻の恵信尼様との生活は大きな意味があると思います。私たち坊守、若坊守も住職の方の後をついていくだけではなくて、「恵信尼様見ててくださいね」っていえるような歩みを慶讃法要をおして進めていきたいと思っています。

寺本 宗門の政策の「元氣なお寺づくり講座」をうちのお寺は縁あつて受講したんですが、

て御本山を身近に感じていくことにも繋がると思っています。

Q. 教区教化テーマ「生活を聞法の場合」について、ご意見をお聞かせください。

菊池 九州教区の教化テーマとして「生活を聞法の場合―真宗門徒として―」が掲げられていますが、そこで大切にしたのは「なにか目新しいものではなく、日常の何でもない生活にこそ、お念仏のいのちがはたらいているはずだ」ということでした。日常生活の当たり前が当たり前でないことに気づける場は日常にしかないと思います。

これから慶讃法要をお迎えしてまいります。なにかかしまつたもののなかでお勤めしているのではなく、ちょっと大げさな言い方ですけど、お念仏なしには生きていけないような、そういう日常が生み出され続けていく機縁としていかなければならないのだと思います。

寺本 「生活を聞法の場合」って、本当に大切なことですね。やはりお寺での聴聞が自分の生活の現場でどう明らかになっていくか、そこが本番でしょうから。

話を聞法の場合」とは、なんかこう特別なことをするのではなくて、今足元にあるものを確かめ直していくこと、例えばお寺に身を置く者にとって「お寺にいる」っていうことが、どういうことなのか、それを問われることだなと感じています。

菊池 九州教区になってから一年が経ち、あらためて皆さんのお話を聞かせていただきましたが、本当に課題山積だなというふうに感じています。「生活を聞法の場合―真宗門徒として―」を大切な柱に据えて、それら一つ一つの課題と向き合いながら一日でもはやく九州教区が「九州教区」として立ち立できる歩みを教区の皆さんと歩んでいけたらと思っています。(了)

聞き手 齊藤 暁雲(広報部門)



教化委員会 紹介

育成員研修部門

2020年度事業として各エリアでの得度事前講習会及び、秋安居(育成員研修会)を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、一部中止となったエリアがありました。この2事業については、2023年度以降九州教区としての実施が確認されており、現在当部門では実施方法等についての協議を進めています。

当部門は、僧侶を対象とした研修会の企画・立案・実施が主となります。教区改編により、800カ寺以上となった大教区でどの様な研修会ができるのか、また過疎地域や長崎県・鹿児島県では離島寺院もあるなかで、育成員の研修が抜け落ちることなく展開してまいりたいと考えています。

教区内の皆さまには当部門事業のご理解とご協力を何卒宜しくお願いいたします。



幹事 齊藤 暁壽

総合教化本部

九州教区が発足して10カ月が経過しました。慣れ親しんだ旧教区に比し、何もかも大きくなり、今まで不可能だった教化活動をダイナミックに構想できるようになったことは大いに歓迎すべきことです。

しかし、所期の目的は教化活動の一層の充実にあるのですから、規模の大きさが絶対的な条件になるわけではないと思います。何気ない真宗門徒としての日常生活の環境を整えることを抜きにしては、改編の意味もその大半が損なわれることとなります。教区教化テーマを「生活を聞法の場に―真宗門徒として―」に決めた所以です。総合教化本部はこのテーマを実のあるものとすべく、様々な部門で教化活動を展開していきます。



本部長 菊池 政和

同朋の会推進部門

九州の教区改編に伴い、新たに発足した教化委員会「同朋の会推進部門」の幹事を勤めさせていただく長崎組武宮智です。

この部門は主に「同朋の会推進講座」と「組門徒会員研修」を所管しており、これまでの旧教区や旧組が取組んできた事業を受けつつ、新教区の体制作りを行っています。

同朋会運動推進のために始まった推進員養成講座は、平成29年から同朋の会推進講座と改称し、多くの推進員を生み出してきました。しかしながら、旧教区の取組みには差があり、新教区としてどのように事業を推進していくか、移行期間の検討課題です。

また、組門徒会員の研修についても、これまでの取



幹事 武宮 智

り組みや各地域の特性に応じた研修を実施できるように、調整を進めています。

この三年間は実態調査や調整が主になりますが、各組の意見を聞きながら次に繋がる形を模索していきたいと思っています。

広報部門

同朋社会の顕現のため、すべての人に親鸞聖人の教えを届けたい。

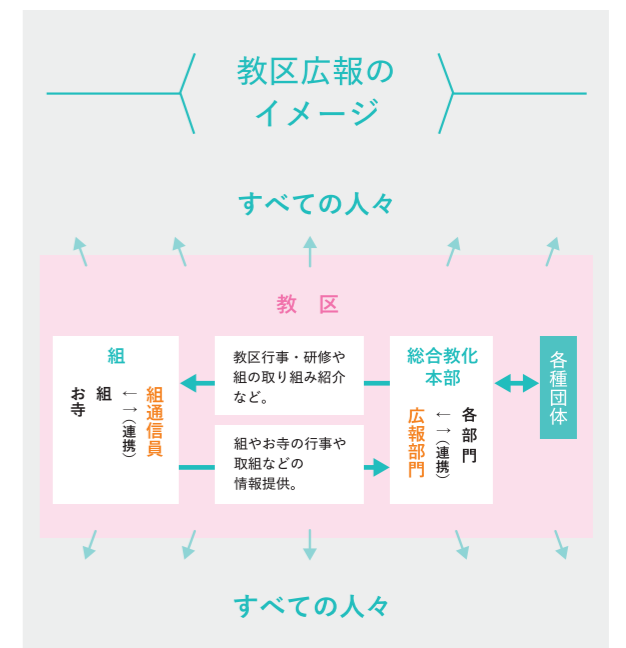
そのために、当部門は人と人、人と情報を結ぶ「バブ(中継器)」としての役割を担います。

「本願念仏の教え」や「社会へのメッセージ」はもとより、様々な情報を、受け手の立場に立って、分かりやすい表現で皆さまにお届けできるよう努めます。



幹事 蓮尾 康行

当部門では、ホームページや教区だより『聲(ヴォイス)』に掲載する情報を募集しております。あなたの組やお寺での取り組みを教えてください。また伝えたい情報などございましたら、組通信員を通じてお寄せください。



九州教区 解放運動推進協議会



幹事 横田 亮雄

九州教区への改編に併せて、「解放運動の推進」も大きな課題として解放運動推進協議会が設けられました。「解放運動」は、「私人間として解放されること」であります。如來の呼びかけに自己が目覚めることでありましょう。社会の常識や世間の慣習に縛られている自身が、生命の尊厳に目覚め、平等且つ尊敬されるべきものとしての存在に気づかされることだと思います。社会の様々な出来事から自己の信心が問われているのです。そのことを自身の課題としていく営みが解放運動だと思えます。先達のご苦勞に感謝し、継承していきたいと思います。

部会紹介

部落問題学習部会

部落差別を中心に、社会の諸差別が提起する問題に学び、研鑽します。

非核非戦・靖国問題部会

平和を希求するとともに、平和を破壊する人間の闇を見つめ、内に抱え込んでいる天皇制を打ち破る信心を追求します。

ハンセン病問題部会

差別を助長した大谷派の歴史を振り返りつつ、ハンセン病が提起する問題を軸に、様々な病害問題に学び、自己の信を問いつけます。

性差別の現実に学ぶ部会

性に関わる様々な差別の現実を学びながら、性的マイノリティの声を聴き続け、自身の生活を見つめ直していきます。

青少幼年部門



幹事 福田 了樹

青少幼年部門では、一教区化に伴う拡大した事業を行うのではなく、組を基軸とした一カ寺一カ寺へのサポートに主軸を置き、ともに青少幼年教化に携わっていきます。特に、これまでの少年層に特化したキャンプや子ども会の実現を推し進めるのではなく、各寺の声を手がかりに、一カ寺一カ寺に合わせた青少幼年教化に取り組んで行く予定です。また、これまで見落としてきた青年層・幼年層への教化にも視点を置き、現に取り組んでいる方や保育関係の方々の意見も取り入れながら、アプローチの方途を探っていきます。以上のことを踏まえながら、青少幼年部門では人の養成(誕生)と場の創造を課題とし、未来の法灯へとつないでいく橋渡しの一助を担っていきます。つきましては、今後、青少幼年教化の実態調査におけるアンケートを行います。皆様にはご理解とご協力の程、よろしく願います。

組教化推進部門



幹事 手嶋 暁史

九州教区発足の準備の時点で、これからは「組を基軸とした教化」が大切であるということと示されています。これは広域な教区で一カ所に集まっていた事業が困難であるという理由だけで示されたわけではなく、教区改編を機縁に「現場の実情にあった教化とは」ということを皆で改めて問い直す必要があるということでもあります。新教区発足と同時に、合併の有無に関わらず、私たちは新たな組としての歩みが始まったとも言えます。当部門の役割は、各組を先導・指示していくことではなく、組で取り組みたいこと、取り組みなければいけないことを後押し・下支えしていくことで、組の教化を推進することだと考えています。教化の面において組と教区をつなげていく、そのために各組の積極的な教化活動と、それを皆で共有していくことへの協力をよろしく願います。

オンライン配信の

はじめ方

はじめに

人の往来が制限される昨今、「遠方にお住まいのご親戚にも参列してほしい」「お聴聞したいが集まることできない」といった声を聞くことも多くなってきたのではないのでしょうか。まさに法務の現場でも、オンラインを利用した在宅聴聞の場が求められるようになってきました。そこで今回テレビWeb会議システム「Zoom(ズーム)」を使用したオンライン配信の手順をご説明します。

★オンライン配信の手順

(本堂での法要・法話を配信する場合)

「事前準備」

- Zoomにアカウント登録します。
Zoomミーティングサイト(上記サイトの画面右上「サインアップは無料です」をクリック、手順に従って情報を入力するとアカウント登録ができます。)
- アカウントをZoomプロ(有料・月額約2,000円)に変更します。(無料アカウントでも使用できますが、無料のままだと40分の時間制限があります。)
- 門徒をZoomに招待するために、連絡先(メールアドレス、LINE等)を交換しましょう。

★Zoomに招待する

- Zoomミーティングサイトにログインし「ミーティングをスケジュールする」をクリックします。手順に従って進むとミーティング(法座)のスケジュールが作成され、招待リンクが発行されます。また開催時間は例えば10時から開始であれば、9時30分から入室可能などにして余裕をもつ

●Zoomでのオンライン配信に最低限必要なもの

- 1 パソコン・スマートフォン・タブレットのいずれか
- 2 インターネット回線
- 3 Zoom公式アプリ
(特にスマートフォンでは必須)
- 4 ご自身のメールアドレス
- 5 Webカメラ、USBマイク
(※パソコンにカメラが内蔵されていない場合など必要に応じて)

zoom ミーティングサイト <https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>

